

バンドスコア5.5⇒6.5⇒7.5へとスコアUP!

IELTS ライティング 徹底攻略

植田一三【編著】 小谷延良 + 上田敏子【著】
アクエアリーズ学長 東京都市大学講師 アクエアリーズ副学長

Effective
Writing



IELTS目標スコア達成と 実力アップのパートナー!

- 序章 IELTSとは!? & ライティング完全攻略10の極意!
- 第1章 IELTSエッセイ全スコアUPに共通する最重要「3つの鉄則」を完全マスター!
- 第2章 IELTS必須! IELTSスコア7.0突破のための文法・語法ルール30を完全マスター!
- 第3章 IELTSライティング ハイスコアゲットのための重要5大テクニックを完全マスター!
- 第4章 【Task 1】 5.5→6.5→7.5へとスコアUP! 必勝法&トレーニング
- 第5章 【Task 2】 5.5→6.5→7.5へとスコアUP! 必勝法&トレーニング
- 第6章 【Task 2】 のレパートリーを増やす背景知識力UP&キーアイデア・トレーニング

語研
定価2,640円
(10%税込)

プロローグ

グローバル化が加速する一方で、大学内での実用英語教育は思うようには進んでいませんが、その代わり、交換留学による実用英語力 UP の傾向がどんどん高まっています。事実、ここ数年の IELTS 受験者の増大は、そういった背景と同時に、大学入試でも、一橋大学の 7 点で英語試験免除のように、IELTS のスコアを重視する大学が増えてきたことが要因となっています。さらに、コロナウイルスの影響によって、オンラインを通して学位が取得可能な **Online and distance courses** を提供する大学も増加し、これによって、自宅に居ながらにして世界の一流大学の授業を受けることが可能になり、昔と比べてもいわゆる「留学」が身近な選択肢になったことも、IELTS 需要増加の一因となっています。

かくして、近年、注目を浴びている **IELTS (International English Language Testing System)** は、1989 年に日本に本格的に導入が始まってから、30 年以上が経ちましたが、現在では、世界 140 개국以上の 1 万を超える高等教育機関において入学条件の英語力を測るテストとして採用されています。受験者も年々増加傾向にあり、世界における受験者総数は 2009 年の約 140 万人から 2019 年には 350 万人を突破しました。同様に日本においても 2009 年の約 8,000 人から 2019 年には約 **50,000 人** に達し、加速的増加の一步をたどっています。

しかしながら、「受信型」の英語教育中心で育った多くの日本人受験者には IELTS はハードルの高い試験です。中でもライティングとスピーキングは独学によるスコア UP が極めて難しく、発信力 UP に多くの受験者が苦しんでいます。特にライティングに至っては、**IELTS 特有の厳格な採点基準**がスコアアップの大きな壁となって英語学習者の前に立ちはだかっています。

こういった状況を打破するために、受験者の弱点や試験問題の徹底分析に基づいて、より効果的にスコア UP をするための「**IELTS ライティング問題対策の決定版**」を制作しました。本書は、過去 20 年間に渡る IELTS 指導と公式問題を含む試験問題分析と、IELTS 受験者の受験体験 1,000 回以上の試験データ分析に基づいて作られており、スコア UP のテクニックはもちろん、留学後に必要なアカデミックスキル、様々な分野の教養、ライティングに必要な要素をすべて網羅した最強の IELTS ライティング対策本であると言っても過言ではありません。

そして、この史上最強たる所以と言える本書の「5 大特長」は次のとおりです。

本書の5大特長

1. **出題トピックの背景知識とキーアイデア力を効率よくUP!**
 - ▶スコアUPのために、必須トピックのアイデアと背景知識を完全網羅
2. **テーマ別語彙＋必須フレーズを加速的にマスター!**
 - ▶スコアUPに直結する分野別語彙を厳選し、運用語彙を効率的に習得
3. **パラフレーズをはじめとしたアカデミック・ライティングのスキル習得を実現!**
 - ▶スコアUPのために、問題演習を通して、言い換えのスキルを最速でUP
4. **速攻で効果を発揮するテクニックを伝授!**
 - ▶即座にスコアUPにつながるライティング問題攻略法を完全公開
5. **文法・語法のルールを快速でマスター!**
 - ▶スコアUPに不可欠なIELTS重要文法・語法のスコアUP項目30を厳選

英語を始めて53年、本格的に朝から晩まで英語の道を追求してから41年、私のスクールであるアクエアリーズをオープンしてから38年、自己の留学対策勉強を含めてTOEFL, IELTS, GRE, GMATなどの留学対策やエッセイ対策指導を始めて28年以上の歳月が流れました。その間、スタンフォード大学院、ジョンホプキンス大学院、プリンストン大学院、コロンビア大学院などをはじめとする米国のトップスクールに奨学金3,000万円(3名)、1,000万円(3名)、300万円(10名以上)を得て入学した受講者をはじめとし、ハーバード大学、ケンブリッジ大学、UCLA、UCバークレイ、ロンドン大学、バーミンガム大学などをはじめとする英米のトップスクール合格者を500名以上育成してきました。これら長年の経験や実践で得たスキルやノウハウを、本書を通して共有することで、皆さんのライティング力の向上＋目標スコア達成、そして留学実現に貢献できればこれ以上の喜びはありません。

最後に、本書の制作に6年以上の歳月をかけ、全身全霊で取り組んできた「Mr. IELTS」こと小谷延良氏(序章および第1章から第5章担当。4か国で60回以上受験しライティングは2回に1回8.0取得)、「英語教育界のワンダーウーマン」ことアクエアリーズ副学長の上田敏子氏(編集・企画・校正&第6章担当)、英文校閲担当のレスター大学のGlover Sally氏、ベル・ケンブリッジのKen Bateup氏、IELTS講師のShayna Magnuson氏、および(株)語研編集部の中島袋一郎氏には心より感謝の意を表したいと思います。それでは皆さんの志望校入学と新たな可能性開花を祈って

Let's enjoy the process! (陽は必ず昇る)

植田一三 (Ichay Ueda)

目次

プロローグ iii

序章 IELTS とは!? & ライティング完全攻略 10 の極意! 2

▶ **IELTS とは!?..... 2**

1. テストの種類をチェック / 2. テスト形式とセンター：運営団体とセンターをチェック /
3. ペーパーとコンピュータベース試験の違い：特徴をチェック /
4. ライティングセクションの概要とポイントをチェック /
5. スコアリングと理想のスコアメイクをチェック / 6. 評価基準とスコアリングをチェック

▶ **ライティング完全攻略 10 の極意!** 7

【基本編】

- 極意①パラフレーズスキルをマスターする！ / 極意②頻出分野とトピックを絞り対策をする！ /
 極意③背景知識と自分の意見を持つ！ / 極意④自信のある 10 個のエッセイを持つこと！ /
 極意⑤運用語彙力をアップさせること！

【応用編】

- 極意⑥ IELTS ライティングの厳しさを知る！ / 極意⑦タイムマネジメントが鍵を握る！ / 極意
 ⑧ Task 1 から書き始めよ！ / 極意⑨少なからず書き過ぎずに徹する！ / 極意⑩ペーパーとコン
 ピュータ受験の違いをおさえよ！

第 1 章

**IELTS エッセイ全スコア UP に共通する
 最重要「3つの鉄則」を完全マスター!**

14

▶ **鉄則 1. Formal (フォーマル)..... 15**

- ルール 1 — 短縮形で書かない！ / ルール 2 — And, But, So は文頭で使わない！ /
 ルール 3 — フォーマルな単語を使う！ / ルール 4 — 句動詞を使わない！ /
 ルール 5 — できるだけ not を使わない！

▶ **鉄則 2. Objective (客観的)..... 20**

- ルール 6 — Impersonal な表現を使う！ / ルール 7 — Emotive / Judgemental な語彙を使わ
 ない！ / ルール 8 — hedging を使い、語気を和らげ断定表現を避ける！

▶ **鉄則 3. Specific (具体的)..... 26**

- ルール 9 — 意味が具体的なワードを使う！ /
 ルール 10 — 対象を絞り具体例を用いて説明する！

👑 これだけは絶対守ろう！ 最重要「文法」トップ 15 32

- 第 1 位 — For example の後ろに SV を従えているかを確認せよ！
- 第 2 位 — However と Therefore は副詞！ 接続詞としては使用不可！！
- 第 3 位 — 可算名詞と名詞の使い分けに注意！
- 第 4 位 — such as や like を使う時は、名詞が一致するか確認せよ！！
- 第 5 位 — 「手段」を表す by を使う場合は細心の注意を払え！
- 第 6 位 — 定冠詞の有無に注意せよ！
- 第 7 位 — 何についての Firstly, Secondly かを明確にせよ！
- 第 8 位 — government にはすべて the が付くとは限らない！
- 第 9 位 — Tautology (類語反復) に要注意！
- 第 10 位 — 厳選スベリングミスをチェック！
- 第 11 位 — the と its の違いに注意！
- 第 12 位 — despite, in spite of, due to, because of は全て前置詞扱い！ 名詞を従えているかを確認せよ！
- 第 13 位 — 日本語に引きずられて過去形を使ってしまうミスに注意！
- 第 14 位 — 動作をする主体が明確か毎回確認せよ！
- 第 15 位 — Wordiness (冗長さ) がないように注意せよ！

👑 これだけは絶対守ろう！ 最重要「語法」トップ 15 44

- 第 1 位 — first, at first, first of all の使い分けを理解して運用せよ！
- 第 2 位 — lead to 動詞, contribute to 動詞は不可！
- 第 3 位 — especially は文頭で使わない！
- 第 4 位 — important ⇒ significant への安易な言い換えに注意！
- 第 5 位 — influence と affect の使い分けをマスターせよ！
- 第 6 位 — will = 「だろう」ではなく、「だ」のマインドに変えよ！
- 第 7 位 — 「最近」を表す語の使い分けを理解して運用せよ！
- 第 8 位 — 「～を知る」の使い分けをマスターせよ！
- 第 9 位 — rate と ratio の使い方に注意！
- 第 10 位 — art, arts, the arts の違いを理解して運用せよ！
- 第 11 位 — reduce と occur の使い方に注意せよ！
- 第 12 位 — male と female は原則形容詞！
- 第 13 位 — a number of = 「多くの」ではないので注意！
- 第 14 位 — コロケーションを意識して語彙習得を心がけよ！
- 第 15 位 — 勘違い「和製英語」に要注意！

◆ その他 (番外編) — スペルは統一するべし！ 55

- ▶ **1. Signposting** (サインポスティング) をマスター！ 59
- ▶ **2. Paraphrase** (パラフレーズ) をマスター！ 61
4つの Paraphrase テクニックを習得せよ！
- ▶ **3. Referencing** (指示対象) をマスター！ 67
代名詞を完全マスター！ / Head noun を完全マスター
- ▶ **4. Grammatical range and accuracy**
—— 引き締め構文テクニックを完全マスター！ 75
①無生物主語構文をマスターせよ！ / ②分詞構文をマスターせよ！ /
③関係代名詞 3 つの用法をマスターせよ！
- ▶ **5. Punctuation** (パンクチュエーション) 82
コロン “:” (colon) / セミコロン “;” (semicolon)
- **Paraphrase 徹底トレーニング** 85
- **Head noun トレーニング** 106

- ▶ **【Task 1】 グラフ問題を徹底攻略 !!** 117
1. Bar graph (棒グラフ) / 2. Line graph (折れ線グラフ) / 3. Table (表) /
4. Pie chart (円グラフ) / 5. Two charts (2種類のグラフ)
- ▶ **【グラフ問題】 必須表現 12 項目を完全マスター！** 120
①最重要「示している」の表現をマスター / ②「数・量」と「割合」を表す 6 の表現をマスター /
③「増減」と「程度」を表す表現をマスター / ④「前置詞の使い分け」表現をマスター /
⑤さまざまな変化・特徴表現をマスター！ / ⑥倍数表現をマスター /
⑦「構成」を表す表現をマスター / ⑧「比較・対比」表現をマスター その 1 /
⑨「比較・対比」表現をマスター その 2 / ⑩「時間」表現をマスター /
⑪「転換」を表す表現をマスター / ⑫ワンランクアップ表現をマスター
- ▶ **文法スコア UP テクニック ① 4 つの構文をマスター！** 143
- ▶ **文法スコア UP テクニック ② 4 つのメソッドをマスター！** 145

▶ グラフ問題攻略ポイント	149
▶ 数値の表記ルールをマスター！	151
◎ 「グラフ問題」描写トレーニングにチャレンジ！	153
▶ 「マップ問題」の概要をつかもう！	158
▶ 「マップ問題」攻略の必須表現をマスター	159
▶ 「マップ問題」攻略のポイント	166
▶ 「ダイヤグラム問題」の概要をつかもう！	168
▶ 「ダイヤグラム問題」攻略の必須表現をマスター	169
▶ 「ダイヤグラムエッセイ」攻略のポイント	176
◎ 「マップ、ダイヤグラム問題」描写トレーニングにチャレンジ！	178
▶ Task 1 エッセイの構成をマスター！	185
▶ イントロダクションの書き方をマスター！	188
◎ 実践問題にチャレンジ	207
(1) Pie chart / (2) Line graph / (3) Map / (4) Bar chart /	
(5) Diagram / (6) Two graphs	

第5章

【Task 2】5.5 → 6.5 → 7.5 へとスコア UP！ 必勝法&トレーニング

242

▶ Task 2 頻出 10 テーマを攻略！	243
1. Education (教育) / 2. Environment (環境) / 3. Media (メディア) /	
4. Modern life (現代生活) / 5. Business and economy (仕事とビジネス) /	
6. Science and technology (サイエンス・テクノロジー) /	
7. Philosophy of life (人生哲学) / 8. Social problems (社会問題) /	
9. Arts and entertainment (芸術と娯楽) / 10. Gender (ジェンダー)	
▶ Task 2 エッセイの構成をマスター！	264
▶ イントロダクションはこう書くべし！	268
▶ ボディはこう書くべし！	269
▶ 結論部はこう書くべし！	272
▶ 【Task 2】4つのワンランク UP ポイントをチェック！	273

▶ 【Task 2】5つの頻出エッセイパターンを徹底攻略！	276
1. Discussion エッセイ / 2. Agree / disagree エッセイ /	
3. Advantages / disadvantages エッセイ / 4. Positive / negative エッセイをマスター！ /	
5. Two-question エッセイをマスター！	
◆ ちょっとブレイク スコア UP 必須語彙【番外編】	290
● 実践問題にチャレンジ！	291
(1) Advertisement / (2) Ageing population / (3) Digitisation	
(4) Waste problems / (5) School subjects / (6) Success in life	

第6章

【Task 2】のレポーターを増やす背景知識力 UP & キーアイデア・トレーニング

334

▶ A. 教育・子育て	334
① Reading & artistic activities vs. athletic activities (読書&アートかスポーツか)	
② Importance of literature (文学の重要性)	
③ Influences on children: schoolteachers vs. parents (子どもの成長に対する教師・親の影響)	
④ Experiences of small children and teenagers (就学前の経験と十代の経験, どちらの影響が強いのか)	
⑤ The importance of education in prison (刑務所での教育の重要性)	
▶ B. ジェンダー	342
① Lifestyle change (生活スタイルの変化)	
② Parenting and gender (子育てとジェンダー)	
③ Managerial positions and gender (ビジネスリーダーとジェンダー)	
④ Gender and job suitability (ジェンダーと職業の適正)	
⑤ Gender and fields of major (ジェンダーと専攻分野)	
⑥ Political leaders and gender (政治リーダーとジェンダー)	
▶ C. ビジネス	349
① Reasons for work (働く理由)	
② Job satisfaction vs. job security (仕事はやりがいがあるか, 安定か)	
③ Attitudes towards work (仕事に対する考え方)	
④ Business leaders and age (ビジネスリーダーと年齢)	
⑤ Corporate Social Responsibilities (企業の社会的責任 CSR)	
⑥ Life plan (人生の計画)	


▶ D. テクノロジー	356
① AI and robotics (AI とロボット工学)	
② Space exploration (宇宙探索)	
③ Investment on terraforming (テラフォーミングへの投資)	
▶ E. エコロジー	363
① Renewable energy (代替エネルギー)	
② Loss of species (絶滅危惧種)	
③ Animal testing (動物実験)	
④ Throwaway society (使い捨て社会)	
▶ F. メディア	370
① Pros and cons of the internet (インターネットの賛否)	
② Sources of information: The internet vs. books and TV (情報源: インターネットか, 本・テレビか)	
▶ G. グローバル化と格差社会	374
① The problems of globalisation (グローバル化の弊害)	
② Widening income gap (拡大する収入格差)	
③ Elimination of hunger and poverty (飢餓と貧困の撲滅)	
▶ H. アート	377
① Arts funding (芸術への資金援助)	
② Control on architectural design (建築デザイン規制)	
▶ I. 医学	380
① Prevention or treatment (予防か治療か)	
② Health management: an individual responsibility vs. government responsibility (健康管理は個人の責任か, 政府の責任か)	

【装丁】 山田英春

【問題文イラスト】 奥田幸子 (Sachi-Studio) [231 ページの問題文]

* 本書の英語表記はイギリス英語で書かれています。

* 本書の情報は 2021 年 3 月末時点のものです。



序章

.....

IELTSとは!?
&ライティング完全攻略
10の極意!

IELTS とは!?

まずは IELTS の概要と、必要な知識、そして最新の傾向を踏まえた基本情報を見ていきましょう。

1. テストの種類をチェック

IELTS は **Academic module** (アカデミックモジュール) と **General module** (ジェネラルモジュール) の 2 種類があります。前者は主に大学 (院) をはじめとする高等教育機関入学のために、後者は主に就職やビジネス、移住を希望する人がビザ申請をする際に利用されます。この 2 つはリスニングとスピーキングは同じ問題と形式で、リーディングとライティングは出題形式と難易度が異なります。

また、一般的な IELTS の他に、英国ビザ申請用の **IELTS for UKVI** と **IELTS Life Skills** (共に British council でのみ実施) という 2 つのタイプがあります。特にイギリスの大学 (院) 入学を考えている人は **通常の IELTS か、IELTS for UKVI でなければいけないかの確認を事前に行ってください**。受験料は、ペーパーが 25,380 円、コンピュータは 26,400 円 (共に税込、2021 年 3 月末現在) ですが、詳細は次に紹介する各センターのホームページでご確認ください。

2. テスト形式とセンター：運営団体とセンターをチェック

日本では、**IDP Education** (オーストラリア) と **British Council** (イギリス) の 2 つの機関によって運営されています。形式は、**コンピュータ IELTS** (Computer-delivered IELTS) と **ペーパー IELTS** (Paper-based IELTS) の 2 種類があり、どちらで受験しても同じです。以下が 2021 年 3 月末時点でのテストセンターと実施状況です。

▶ IDP Education (オーストラリア) 運営

テストセンター	ペーパー	コンピュータ
ジェイサフ (JSAF)	○	○
パークレーハウス	×	○
札幌テストセンター	○	×
北九州予備校	○	×

❁ IDP Education 受験 3 大特徴・特典

1. ライティングの無料添削が受けられる（1 回の試験につき 1 回可能）。
2. スピーキングテストの時間帯指定が可能（10 日前までに申し込み、会場による）。
3. 試験 3 日前まで受付可能（空きがある場合のみ）。

▶ British Council（イギリス）運営

テストセンター	ペーパー	コンピュータ
英語検定協会（英検）	○	○
ブリティッシュ・カウンシル	×	○

* 次の 3 点もおさえておきましょう。

- ① 結果は通常ペーパーが 13 日後、コンピュータは 5～7 日後に通知されます。
- ② 空きがある限り、1 か月に何回でも受験可能で、20 回以上受けることもできます。
- ③ 採点結果に満足がいかない場合は再採点（Remark）をリクエストすることが可能です（有料）。ただし 1 か月前後かかるので時間に余裕を持って申請を行ってください。ライティングとスピーキングはスコアアップの可能性がります。

3. ペーパーとコンピュータベース試験の違い：特徴をチェック

これは私の受験経験上の感想を含めた大まかな違いです。スピーキングは両方とも対面で同じですが、残りの 3 セクションは次のような特徴があります。

ライティング	ブラインドタッチに慣れていれば圧倒的にコンピュータベースが有利で、コピーアンドペーストや切り取りが可能。また自動文字カウント機能やタイマーもついている。
リーディング	パソコン上で英文を読むことに慣れているか否かが分かれどころで、日本人にはペーパーの方がとつきやすい印象。コンピュータベースでは画面上で英文にハイライトすることは可能。
リスニング	コンピュータベースが有利。ヘッドホンで聴くため集中できる。ただし全パート終了後の確認、転記時間が 2 分しかないため（ペーパーは 10 分）解答スピードが要求される。

各セクションの開始時間や順番は、テスト形式やテストセンター、実施日程などにより異なることがあります。詳細は、各センターのホームページや申し込み後の受験票でご確認ください。

4. ライティングセクションの概要とポイントをチェック

Task 1 と Task 2, 2 種類のエッセイを 60 分以内に書き上げます。以下が主な特徴です (Academic module)。

	Task 1*	Task 2
タスク	グラフやフローチャート, 地図などの変化や特徴を分析し描写する。	特定のテーマについて, 自身の意見を中心として論理的なエッセイを書く。
字数指定	150 語以上	250 語以上
スコア割合	3 分の 1	3 分の 2

* General module の場合, Task 1 ではレターライティングが出題されます。

【ここに注意】▲

▶ Task 2 の配点が大きいため, Task 2 に力を入れがちですが, **Task 1 をないがしろにはいきません**。受験, 指導経験上 **Task 1 の精度が低いと, 6.5 以上を取ることは難しくなります**。よって, バランスよく対策するように心がけましょう!

5. スコアリングと理想のスコアメイクをチェック

目標スコア (overall) を達成するには, 4 つの各セクションでどの程度点数を取ればよいかを事前に把握しておくことが大切です。特にライティングはスコアが最も出にくいので, 他のセクションでカバーすることが重要になってきます。まずは全体のスコア算出方法を知っておきましょう。

【Overall のスコアリング】

リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	Overall
6.0	7.0	6.0	6.5	6.5

この場合は 4 つの合計を 4 で割るので, $25.5 \div 4 = 6.375$ となります。この場合は切り上げるので, 6.5 が最終のスコアです。最終的なスコアは小数点以下により, 算出方法は次のように決まっています。

- ・ 0.25 未満の場合 → 0.0 に繰り下げ
- ・ 0.25 以上の場合 → 0.5 に繰り上げ
- ・ 0.75 未満の場合 → 0.5 に繰り下げ
- ・ 0.75 以上の場合 → 1.0 に繰り上げ

では次に、目標スコア（overall）別の理想的かつ現実的なスコアを見ていきましょう。

【全セクションのスコアメイク】

Listening	Reading	Speaking	Writing	Overall	合計スコア レンジ
5.5	5.5	5.0	5.0	5.5	21~22.5
6.0	6.0	5.5	5.5	6.0	23~24.5
6.5	6.5	6.0	6.0	6.5	25~26.5
7.0	7.0	6.5	6.5	7.0	27~28.5
7.5-8.0	7.5-8.0	7.0-7.5	6.5-7.0	7.5	29~30.5

この表からわかるように、ライティングのスコアはなかなか出にくいので、目標を達成するには、リスニングとリーディングである程度安定したスコアを取ることが重要な鍵と言えます。

💡 ここがポイント！

受験回数や間隔についてですが、**目標スコアを取れる力がついたらある程度連続して受ける**ことをお勧めします。つまり、毎月1回ずつよりも、毎週、または1週間に2～3回といった形です。指導経験上、こちらの方が感覚を維持できるためスコアが出やすい傾向にあります。ただし、力不足にもかかわらず、**まぐれを期待して受け続けることは絶対NG**なので避けてください。

6. 評価基準とスコアリングをチェック

上記の Task 1 と Task 2 は、一部評価基準が異なります。詳細は **band descriptors (public version)** という一覧で一般にも公開されており、インターネットでダウンロード可能です。これは試験官が採点の際に使用するものと大きな違いはありません。詳細は各章で解説しますが、ここでは4つの評価基準と、**特に重要な項目**を抜粋して見ていきましょう。（*が付いている重要語は各章で詳しく取り上げます。）

Task achievement (TA) (タスクの達成度: Task 1)	Task response (TR) (タスクへの応答: Task 2)
1. 数表記や計算, 分析は正確か 2. 目立つ特徴を具体的に書いているか 3. 必要に応じて比較ができていないか 4. 概要 (overview) * が書かれているか ☞ これがない, あるいは不十分だとスコアは 5.0 以下になります。	1. スタンスが明確になっているか 2. 主張がテーマに沿っているか 3. 関連した例を挙げながら, 具体的に話を展開できているか ☞ 説得力を高めるには, 例を掘り下げて書くことが重要です。
<p style="text-align: center;">Coherence and cohesion (CC) (文章の一貫性とつながり: Task 1, Task 2 共通)</p>	
1. 論理的かつわかりやすく話を展開できているか 2. 文章や段落同士のつながりや展開がスムーズか 3. 指示代名詞や, 副詞や接続詞などの 接続語 (Cohesive devices) * の運用が適切か 4. パラグラフの構成は適切か, 情報にまとまりがあるか ☞ 他の英語資格試験の形でなく, IELTS で好ましいとされる形式に従って書くことがスコア達成への最適なアプローチです。	
<p style="text-align: center;">Lexical resource (LR) (語彙: Task 1, Task 2 共通)</p>	
1. 書き言葉と話し言葉の違いを理解して運用できているか 2. 特定のテーマや問題タイプに関連した分野別語彙が使えているか 3. 語と語の自然な結びつき, 相性 (collocation) * を理解し運用できているか 4. パラフレーズ (paraphrasing) が効果的にされているか ☞ これを適切かつ効果的にできるか否かでスコアが 1.0 変わるほど重要な IELTS 必須のアカデミックスキルです。	
<p style="text-align: center;">Grammatical range and accuracy (GR) (文法の運用幅と正確性: Task 1, Task 2 共通)</p>	
1. 単文 * と 複文 * を織り交ぜて書いているか 2. パンクチュエーション (punctuation) が正確に使えているか 3. さまざまな文法事項や構文を, 幅広く正確に運用できているか ☞ 特に 受動態, 分詞構文, 関係代名詞, 無生物主語構文 , の4つの効果的な運用がスコアUPにつながります。	

* 単文とは SV. のように節が1つの文, 複文とは, SV because S'V'. のように接続詞を用いて節が2つで構成されている文のこと。

各基準の配点は、25% ずつで、0～9.0 のスコアで **1.0 刻み** で評価が行われます。

以上が IELTS に関する基本的情報です。大まかな内容はつかんでいただけましたか？ それでは次に、スコア UP の鍵を握る 10 の極意について見ていきましょう。

ライティング完全攻略 10 の極意！

【基本編】

極意① > パラフレーズスキルをマスターする！

エッセイライティングではさまざまなアカデミックスキルが必要ですが、中でも特に重要なスキルが**パラフレーズ**です。これは同じ表現の繰り返しを避けるために、コンテキストに応じて**別の形や語句で言い換えるスキル**のことです。このスキル習得をなくして IELTS のライティング攻略は不可能です。本書では「**理論的理解**」+「**レベル別問題演習**」の2段階アプローチで徹底的にこの力を養います。

極意② > 頻出分野とトピックを絞り対策をする！

出題頻度が高い問題に的を絞ることが最も効率的な学習方法です。Cambridge 出版の公式問題集に掲載されているライティングの問題は、出題頻度順ではないため、マイナーなトピックも見られます。よって、ひたすら公式問題集を中心にこなすのは賢明ではありません。**分野を絞り込んだ対策**が最短最速のスコア達成のアプローチであり、本書ではそれらを中心にトレーニング+演習を行います。

極意③ > 背景知識と自分の意見を持つ！

極意②とも関連しますが、特に Task 2 において重要なポイントです。まずは出題頻度が高いさまざまな社会問題や出来事に対し、**関心と問題意識を持つこと**が大切です。つまり、教養を身につけたら、**自分自身はどう思うのか、賛成か反対なのか**、そしてその**理由と根拠は何か**、といったように普段から深く考える習慣をつけ、そして**自分自身の言葉で表現すること**を心がけましょう。

極意④ > 自信のある 10 個のエッセイを持つこと！

やっではないけないライティング学習方法として、「**ひたすら多くの新しい問題を**

こなすこと」が挙げられます。重要なことは、類似したトピックが出題されたら、完成させたエッセイに近いクオリティで仕上げることです。このことから、添削を受けたら、次々に新しいエッセイを書くのではなく、リライトして下さい。そして、まずは自信を持って**高い精度で書くことができるエッセイを10本持つこと**が最優先です。それができれば、15問、20問と少しずつストックを増やしていくようにしてください。特にTask 2は類似問題が出ることがあるので、より重要性が高いと言えます。

極意⑤ > 運用語彙力をアップさせること！

「運用語彙」とは意味を理解できるだけでなく、正しく実際に使うことができる語彙のことを指します。ここで重要なポイントは、エッセイライティングに必要な「**アカデミックボキャブラリー**」と「**分野別語彙**」の運用力を高めることです。これらを正確に効果的に運用する力をアップさせることで、ハイスコアをゲットすることが可能になります。

では続けて【**応用編**】にまいりましょう。

【応用編】

極意⑥ > IELTS ライティングの厳しさを知る！

例えば、英検1級に合格できた、TOEFL iBT®のライティングで高得点(30点中27以上)が取れた、だからその勢いでIELTSもハイスコア、というわけにはいきません。つまり、他の資格試験の要素をそのまま当てはめるのは危険なため、IELTSの形式に基づく対策が必要です。大卒以上で一定の教養があるネイティブでも、特に対策をせず受けると、スコアが低い傾向にあります。知り合いのイギリス人(大卒)も初受験で、スピーキングは9.0(満点)でしたが、ライティングは7.0でしたし、私自身も今ではある程度安定して8.0以上を取ることができですが、6年前の帰国時はその力はありませんでした。当時はすぐに英検1級に合格し、TOEFL iBT®のライティングでも28点取れ、意気揚々とIELTSを受験したらライティングは7.0、その後もう一度チャレンジしたら6.5に下がってしまいました。これを機に一念発起し、大学院卒業後にもかかわらず、IELTSの再学習が始まりました。特にライティングスコア改善+研究のためにIELTSの専門校にも通い、教材や添削等も含めて60万円ほど使い、ライティングの極意を身につけました。これらの例から言えることは、英語がある程度得意な人でも**自己流でやってしまうと事故る**、そして、**IELTS ライティングの特徴をつかむことがすべて**、ということ

です。次の表は公式に毎年出されている国籍別のスコアデータです（アカデミックモジュール）。

国籍	Reading	Listening	Writing	Speaking	Overall
ドイツ	7.7	7.9	6.3	7.4	7.4
ギリシャ	7.3	7.5	6.1	6.8	7.0
フランス	7.1	7.0	5.9	6.6	6.7
インド	5.9	6.5	5.8	6.0	6.1
ベトナム	6.3	6.2	5.7	5.7	6.1
韓国	6.3	3.3	5.6	5.8	6.0
中国*	6.2	5.9	5.5	5.4	5.8
日本	6.1	5.9	5.5	5.5	5.8

Test taker performance 2019 より一部抜粋 *中国は本土のデータ。香港、台湾は除く

どの国もライティングの低さは顕著で、ここに表記がない国でも同じ傾向が見られます。ヨーロッパ圏の人はスピーキングではハイスコアですが、ライティングでは他国と比較しても大差が見られません。また、あくまで目安ですが、英検1級平均合格点ぐらいで受験すると、ライティングは6.5～7.0、またTOEFL iBT®で28～30点でも、7.0～8.0が相場です。少し面食らったかもしれませんが、本書では、研究・受験・学習の3大要素に基づくスコアUPを**最短最速で実現させるためのすべてのエッセンスが入っている**ので心配ご無用です。IELTS 特有の特徴と形式をしっかりと理解し、一緒に目標スコア達成を目指しましょう！

極意⑦ > タイムマネジメントが鍵を握る！

まず本書が推奨する Task 1 と Task 2 の時間配分は次のとおりです。

> **Task 1 : 22 分以内** **Task 2 : 38 分以内**

えっ、20分、40分の配分じゃないの？と思われた方がいるかもしれません。確かに公式問題集には You should spend about 20 [40] minutes on this task. と書かれています。これはあくまで目安です。指導と受験経験から言って、この配分で書ききろうとすると、特に Task 1 が粗くなりがちです。グラフ問題が出た場合、焦って計算ミスや表記ミスをする、Task achievement だけでなく、すべての項目に影響します。したがって、本書では次のような時間配分とアプローチで取られることを推奨します。

	① プランニング	② ライティング	③ 見直し
Task 1	2～3分	17～18分	2～3分
Task 2	3～4分	30～32分	3～4分



第**1**章

.....

**IELTSエッセイ全スコアUPに
共通する最重要「3つの鉄則」を
完全マスター!**

第1章

IELTS エッセイ全スコアUPに共通する
最重要「3つの鉄則」を完全マスター！

ライティングでハイスコアをゲットするためには、**IELTS 特有のアカデミック・ライティングのルールに従うこと**が重要です。これらは IELTS に限らず留学後のエッセイライティングでも共通する項目です。まずはこの基礎となる3つのキーワードを確認しておきましょう。

3つの鉄則

1. **Formal** (フォーマル)
2. **Objective** (客観的)
3. **Specific** (具体的)

まず1.の**Formal**はライティング特有の「固い文体と語彙を用いて書くこと」を指します。つまり友人や家族との日常会話で使うだけだった表現ではなく、書き言葉を使うことが重要です。また、文章も節主体でなく名詞(句)中心で書くことでフォーマル度も高くなり、かつ**Concise**(簡潔で無駄がない)な文章になります。加えて、形式もアカデミックな構成、いわゆるパラグラフ・ライティングのルールに従い書きます。

次に2.の**Objective**ですが、アカデミック・ライティングでは Subjective(主観的)な要素を入れてはいけません。例えば「私の経験では～」 「～は素晴らしい」など個人の体験や評価を述べることは原則不可です。ただし Task 2 では一部可能ですので、これは後ほど詳しく解説していきます。

3.の**Specific**に関しては「具体例を入れ、具体的な表現を使う」というマインドを持ってください。より詳細な例を書くことが6.0以上を確実にゲットする方法です。語彙についても日常会話向きの意味が広く曖昧な語(General words: 例 get, good)の使用は避け、意味が明確な語を使うようにしてください。

ここからは具体的にこの3項目を中心に IELTS のライティングに焦点を当てながら、スコアUPに不可欠な**10のアカデミック・ライティングのルール**を見ていきます。それではまいりましょう！

鉄則 1. Formal (フォーマル)

👉 ルール 1 — 短縮形で書かない！

IELTS をはじめとした (セミ) アカデミック・ライティングでは、**短縮形 (contraction)** は使いません。次のように短縮形を使わずに書いてください。

- ✕ It's easy to buy goods on the internet today.
- It is easy to buy goods on the internet today.

👉 ルール 2 — And, But, So は文頭で使わない！

この3語を**文頭で使うことは不可**です。新聞、ニュース、またインフォーマルなエッセイでは文頭で使われることもありますが、IELTS をはじめとするフォーマルなエッセイでは使用禁止です。

よって、文頭で使う場合は次の副詞を用いて書くようにしましょう。

- ・ but ⇒ **however / nevertheless / on the other hand**
- ・ and ⇒ **in addition / additionally / moreover / furthermore**
- ・ so ⇒ **therefore / as a result / for this [these] reason(s) / consequently**

また、これと関連して、so を文中で使うことも控えてください。

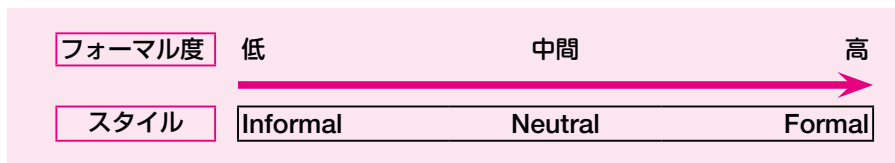
[△] The consumption of the world's natural resources is rapidly increasing around the world, **so** urgent action must be taken to improve this situation.

(世界の天然資源の消費は世界中で急速に増加している**ので**、この状況を改善するために早急な措置が取られなければならない)

この so の用法も少しカジュアルなので、一度文を区切り、Therefore や For this reason 等に変えて、～ around the world. **Therefore [For this reason]**, urgent action ... のようにします。また、最初の S V が比較的短ければ (10 語前後)、文を切らずに and therefore を使い、**S V, and therefore, S' V' ..**、あるいはセミコロンを用いて **S V; therefore, S' V'** のように書くようにしてください。

👉 ルール 3 — フォーマルな単語を使う！

これはエッセイにふさわしい「書き言葉を使うこと」を指します。言語には一般的に「文体/フォーマル度」という概念があり、英語では **register** (= **the degree of formality**) や **style** と呼ばれます。これはいわゆる表現がどの程度カジュアルか、固いか、ということの意味です。例えば、「めっちゃ楽しい旅行」はカジュアルですが、「非常に充実した旅行」とすると固い響きになります。同様に、日常会話で *moreover, therefore, enable* などの論文で使われるような語を使うと不自然で浮いてしまいます。つまり、それぞれの単語が書き言葉、話し言葉なのかを理解して使い分ける力が重要です。では、エッセイライティングに必要なフォーマル度の基本的な概念を表した以下の表をご覧ください。



フォーマル度は矢印の右に行けば行くほど高くなり、文体も固くなります。ではこの3つのスタイルを左から順に一つずつ見ていきましょう。

▶ Informal (話し言葉)

colloquial とも呼ばれ、友人や家族との日常会話で使う「くだけた語彙」と考えてください。例えば *amazing, nice, too much* や、*find out* などの **phrasal verbs** (句動詞) が含まれます。

▶ Neutral (中間語)

書き言葉、話し言葉の両方で使われる語彙を指します。例えば、*improve, many, knowledge, experience, also, instead of* など、分野を問わず幅広く運用が可能です。

▶ Formal (書き言葉)

論文やフォーマルな討論などの堅い文章に使われるような **Academic vocabulary** (アカデミック語彙) がその代表例です。また、上記の Neutral と Formal の中間に位置する **Semi-formal** (準フォーマル) という分類もありますが、すべての単語の明確な線引きが難しいため、本書ではこの Formal の部類に含めています。

この他にも、Formal よりさらに固い詩や文学作品で使われる Literary (文学的) という項目もありますが、これは使う機会はないと思ってください。このことから **Neutral と Formal の語を用いて文章を書く** ようにしてください。以下に誤って使いがちな語を挙げておきますので、インフォーマルな語は代替語に置き換えて書くことを心がけましょう。

× (不可)	代替語	× (不可)	代替語
kids	(young) children	a lot of / lots of	many / numerous
really / pretty	particularly / fairly / highly	of course	indeed / it is true that
make better	improve / upgrade / enhance	actually	in fact / in reality
make worse	worsen / exacerbate / aggravate	totally	completely / entirely
besides	moreover / additionally	a little bit	slightly / somewhat
everybody	every individual [person]	maybe	perhaps / probably
more and more	a (n) increasing [growing] number [amount] of ~	too much	excessive(ly) / extreme(ly)
and so on / etc / eg	A, B and C, to name a few / A, B and C.	too	as well / also

この他にも次の語はインフォーマルなので、使わないように注意しましょう。

- pros and cons / all things considered / it goes without saying that

鉄則 2. Objective (客観的)

Objective (客観的) とは、エッセイ中に感情的な表現を入れることなく、書くための重要な項目です。では3つのルールについて見ていきましょう。

👉 ルール 6 — Impersonal な表現を使う！

objective な重要な要素のひとつとして「**impersonal (非個人的) に書くこと**」が挙げられます。これは**人称代名詞 (I, we, you など)** を使わずにエッセイを書くという意味です。まずはこの3語については次のように理解しておいてください。

	種類	Task 1	Task 2	注意事項
①	I, my, me	×	△	Task 2 のみで使用可能。
②	we, our, us	△	△	使用可能だが使わない方がよい。
③	you, your	×	×	話し言葉なので使用不可。

まず①は、エッセイで自己のスタンスを「**イントロダクションで書く場合**」と、「**コンクリュージョンで再主張 (restatement) する場合**」以外は不要で、**ボディパラグラフでは I や my を使う必要はありません**。Task 2 では次の表現を覚えておけば十分です。

➤ **I believe / In my opinion / I mostly agree / I would argue** など

時々 **From my point of view / It is my belief that / I am of the opinion that** のような表現を使う方がいますが、冗長になるので避けるようにしましょう。

次に②の **we / us / our** に関しては、許容範囲ですが、6.5 以上を目指すのであれば使わない方がよいでしょう。実際のところいろいろな試験官と話す中で、**we** の使用については少し意見が分かれます。目につかなければよい、自然に使えていれば構わない、という人もいます。ただし概ね一致する意見としては、**ハイスコアのエッセイ (目安として 7.0 以上) は we, us, our が使われていない傾向が強い**、という点です。さらには、**留学後のエッセイライティングでもこの3語を使うことは非常に少ない**ので、留学前から使わずに書く習慣をつけておくことが大切です。

ではこの3語を使わずに書く方法を見ていきましょう。



第2章

.....

IELTS 必須!
IELTSスコア7.0突破のための
文法・語法ルール30を
完全マスター!

第2章

IELTS必須！ スコア7.0突破のための
文法・語法ルール30を完全マスター！

ライティングの評価基準において、**文法と語法の割合は合計50%を占める**ため非常に重要です。しかしながら、知識はあってもいざ書いてみると気づかないうちにミスをしているケースがよくあります。ここでは、IELTSでよく見られるミスや重要な項目を「**文法編 15**」「**語法編 15**」の2つに大きく分けて厳選しました。効果的な活用方法としては、

① **一読する** → ② **エッセイを書く** → ③ **再読してセルフチェック**

という流れです。何度も繰り返すことで自動的に正確に運用できるようになります。まずは「**文法編**」からです。それでは早速まいりましょう！

これだけは絶対守ろう！ 最重要「文法」トップ15

👑 第1位 — For example の後ろに SV を従えているかを確認せよ！

for example [instance] は副詞扱いのため、文頭で使う場合“**For example, S V.**”の構造が原則です。よって次のような名詞を列挙した英文は誤りです。

[×] When choosing a job, people consider a number of factors. **For example, salary, employee benefits and location of the workplace.**

➤ 名詞の列挙は不可。

よって次のように変える必要があります。

→ [○] When choosing a job, people consider a number of factors. **For example, they should factor in** salary, employee benefits and location of the workplace.

➤ SV を従える。

(仕事を選ぶ際は、いくつかの項目を考慮する。例えば、給与、福利厚生、勤務地などである)

このことから、for example を文頭で使う際は SV が来ているか毎回確認してください。ただし、次のように文頭ではなく挿入的に使うことは可能です。

→ [○] There are eight planets in the solar system, **for example**, Mars, Jupiter and the Earth.

(太陽系には8つの惑星がある。例えば、火星、木星、地球などである)
 ▶ 《SV, **for example**, 名詞.》の形が原則。

👑 第2位 — However と Therefore は副詞！ 接続詞としては使用不可 !!

この2語は**接続副詞**と呼ばれ、前に紹介した for example と同じ副詞です。よって接続詞としての使用は不可です。まず however を用いた次の英文は誤りです。

[×] Robots bring numerous benefits, **however**, it can cause trouble.

(ロボットは数多くの恩恵をもたらすが、問題を引き起こすこともある)
 ▶ このように SV はつなげないため、以下の3つの方法で改善が必要です。

① → [○] Robots bring numerous benefits, **but [(and) yet]**, it can cause trouble.

② → [○] Robots bring numerous benefits. **However**, it can cause trouble.

③ → [○] Robots bring numerous benefits; **however**, it can cause trouble.

①は but か (and) yet に変える、②は文を一度区切り文頭で However を使う、そして③のようにセミコロンを使う用法です。

同じく **therefore** も副詞なので、次のように SV 同士をつなぐことはできません。

[×] Robots are increasingly being used in a wide range of industries, **therefore**, the need for human labour will be drastically reduced.

(ロボットは幅広い業界で利用が増えている。したがって、人的労働力の必要性は大幅に減ることになる)

代替表現としては、“**, and therefore**”にするか、一度文を切ってから、文頭で **Therefore** や **For this [these] reason(s)** を使うとよいでしょう。



第3章

IELTSライティング
ハイスコアゲットのための
重要5大テクニックを
完全マスター!

第3章

IELTSライティング ハイスコアゲットのための
重要5大テクニックを完全マスター！

(Cohesion / Paraphrasing / Head noun / Referencing / 引き締め構文テクニック)

ここではさらにワンランク上のステージに到達し、6.0以上を確実にゲットするための**5大テクニック**と**キーワード**を紹介していきます。それがこちらです。

5大テクニックとキーワード

1. Signposting (サインポスティング, 標識化)

➤ 接続語を使い、文やパラグラフの関係性を明確にすること

2. Paraphrase (パラフレーズ, 言い換え)

➤ 異なる表現や文構造を使い、文体を変化させること

3. Referencing (指示対象)

➤ 特定の語や内容を指し示すこと

4. Grammatical range (文法の幅広さ)

➤ 幅広い文法項目を運用すること

5. Punctuation (パンクチュエーション)

➤ カンマ, セミコロン, コロンなどを効果的に使うこと

聞きなれない表現が多いと思いますが、この5大テクニック・キーワードをマスターすればみなさんのライティングの精度が何倍にもアップし、生まれ変わります。また、留学後のアカデミック・ライティングでも求められる基礎知識です。

詳しいレクチャーに入る前に、前提としておさえておくべき点があります。この5つの中で特に重要な項目は1～3で、その理由は、ずばり「**cohesion**の改善がスコアアップの鍵を握っているから」です。評価項目4基準のうちのひとつに**Coherence and cohesion** (一貫性と結束性) という項目がありました。少しおさらいをしておくと **coherence** とは logical and clear, つまり「論理性があり、わかりやすいか」、一方 **cohesion** は「前後の文やパラグラフのつながりが明確で話の展開がスムーズか」という意味でした。まずはこの「**cohesion**とは何か」「なぜ重要か」という観点と、そして1の**Signposting** (サインポスティング, 標識化) と連動させてレクチャーと問題演習を行っていきます。それでは気合を入れてまいりましょう！

1. Signposting (サインポスティング) をマスター!

signpost とは「**文やパラグラフの関係性をわかりやすく伝えるための標識**」を意味し、**signpost** を運用することを **signposting** と言います。この **signposting** は前のページで触れた **cohesion** と密接に関係しています。では実際に問題を解きながら見ていきましょう。次の英文は文のつながり (**cohesion**) が悪い英文です。その理由と改善方法を考えてみてください。

[×] I particularly like cycling. It helps me stay fit. I can feel relaxed.
Swimming is another physical activity I'm into these days.

この文は、**意味上のつながり、関係性がわかりにくい**ことが一番の問題点です。また、1文がそれぞれ、4語、5語、4語、7語と、ぶつ切れでリズムが悪いため、読んでいて詰まります。これらを踏まえて **cohesion** を改善すると次のように変わります。

→ [○] I particularly like cycling **because** it helps me stay fit **and** feel relaxed.
Also, swimming is another physical activity I'm into these days.

(特にサイクリングが好きで、それは健康を保てるし、リラックスできるからです。また、水泳は最近ハマっているもうひとつの運動です)

このように **because** を入れることで、**it helps me stay fit** 以下が理由を表し、そして **and** でつなぐことで、サイクリングをすることのメリットが2つあることが明確になりましたね。さらには、**Also** を入れることで、この後に何かを追加されることがわかりやすくなりました。このように **signpost** を使うことで「今からこのことを述べますよ」と読み手に次の展開を伝えることができます。つまり上記の英文では、読者は **because** を見た時点で「あ、この後に理由が書かれているんだな」と予期させることができます。つまり **signpost** を効果的に運用し適切に使いこなすことで、

- ① 途切れ途切れの文が改善する。
- ② 文やパラグラフ同士の流れ (**transition**) がスムーズになる。

という効果があり、最終的に読み手に優しい文章を作ることができます。つまり、文同士やパラグラフ同士が、例えば、対比なのか、追加なのか、逆説なのか、を明確にするために適切な **signpost** を使うことが重要だということです。以下に代表的な

signpost を挙げておきますので、伝えたい内容に合わせて適切な語を選んで書きましよう。

役割	Signpost
例示	for example [instance] / to illustrate / as an illustration / namely
概論	generally / in general / on the whole / as a rule / for the most part
条件	provided / providing / as long as / on the condition that
詳細・言い換え	in particular / specifically / to be more precise / in other words
追加・除外	additionally / furthermore / moreover / except / apart from
逆説・譲歩	however / nevertheless / although / despite / even though
順序	to begin with / initially / subsequently / finally / lastly
転換	in terms of / regarding / concerning / considering / in view of
比較・対象	by contrast / whereas / similarly / likewise / unlike / conversely
結果・理由	as a result (of) / consequently / therefore / thereby / thus
結論	in conclusion / in summary

では最後に英文を書く上で、1文当たりの適切な長さについて見ていきます。明確な規定はありませんが、目安として次のようなマインドを持っておけばよいでしょう。

① 7語以下の文は避ける

➤ 例) [△] I mostly agree with this opinion.

② 10語未満の文の連続は避ける

➤ 接続詞や関係代名詞などでつなぐことができないかを考える

③ 1文あたり 15～30語を目安にする。

➤ 20～25語が最も読みやすいと言われている

④ 35語を超えると2文に分ける方がよい

➤ あまりに長いと読み手に負担がかかります

以上で signposting についてのレクチャーは終了です。お疲れさまでした。次は IELTS 攻略の大きなカギを握る **paraphrase** (パラフレーズ) に移ります。この調子でどんどんまいりましょう！

2. Paraphrase (パラフレーズ) をマスター！

語彙のバラエティと cohesion をさらに向上させるテクニックであるパラフレーズ (paraphrase) について学習していきます。paraphrase とは直訳すると「言い換え (る)」という意味ですが、ロングマン英英辞典では次のように書かれています。

to express in a shorter, clearer, or different way what someone has said or written (言葉や文章を、より端的に、明確に、あるいは異なった形で表現すること)

特に **shorter, clearer or different way** がポイントで、単に類語による言い換えだけでなく、さまざまな方法を用いて表現することが paraphrase の本質ということです。ではまずパラフレーズをする理由について確認しておきましょう。一番の理由は「**同じ単語や表現の繰り返し (repetition) を避けること**」です。これは英語と日本語の言語上の違いが大きく関係しています。まず前提条件として知っておくべき点は、「**英語は日本語よりも繰り返しを嫌う言語である**」ということです。スピーチやライティングでも意図的に繰り返すこともありますが、あまり一般的ではありません。ではパラフレーズの例を具体的に表した以下の、A と B の会話のやり取りを、下線部の変化に注目してお読みください。

A: The restaurant was truly amazing, wasn't it?

B: Yeah, it was absolutely fantastic, including food, price and atmosphere.

A が言った **truly amazing** という語を、B は **absolutely fantastic** に言い換えていますね。これは無意識に行っており、ごく自然なやり取りです。このことから repetition が多いと日本人以上にネイティブスピーカーはその個所が目についてしまいます。よって、単に表現にバラエティをつけるためだけではなく、こういった言語的な特徴からも言い換えが重要になってきます。

そしてもうひとつの理由として、**plagiarism** (剽窃^{ひょうせつ}: 他者の論文やデータを許可なく自分が書いたものとして扱うこと) という概念があります。実際のアカデミック・ライティングではさまざまな文献から引用してエッセイを仕上げますが、この際に一語一句そのまま引用するのではなく、**パラフレーズして引用するのがルールです**。

よって、ここで言い換える力が必要とされるということです。ちなみに、意図せずともパラフレーズせずにそのまま書いてしまうと、plagiarismとみなされ、懲戒の対象となります。よってこのようなルールの観点からもパラフレーズが大きな意味を持ちます。ちなみに、IELTSでは**与えられた設問文を丸写しすると、その個所は字数に含まれない**ので注意が必要です。こういった点から、「IELTS学習を通じて必要な英語力とスキル、知識を身につけてから留学してね」といったIELTSの意図とメッセージを垣間見ることもできます。

ではここから本格的に詳細について学習していきます。まず初めに問題にチャレンジしていただきましょう。

Q 次の英文で、パラフレーズが必要な個所はどこか考えてください。

I believe there are some clear advantages to living in rural areas. The first advantage is its healthy living environment. Unlike megacities, the air in the countryside is clean and fresh because of less harmful emissions from traffic and industry. Another advantage would be greater public safety. Country towns or villages usually have lower crime rates than densely populated cities, which ensures a peaceful environment for residents.

megacity (巨大都市) densely populated (人口過密の)

わかりましたか？ それはわずか70語程度の文章の中に **advantage** という単語が **3回も非常に近い距離で使われている**ことです。このように同じ単語を何度も繰り返し使うと cohesion が悪くなるだけでなく、読み手に語彙力の低さも印象付けてしまうことになります。上記の英文は、次のように変えると repetition が減り改善されます。

I believe there are some clear **advantages** to living in rural areas. The first **benefit** is its healthy living environment. Unlike megacities, the air in the countryside is clean and fresh because of less harmful emissions from traffic and industry. Another **positive aspect** would be greater public safety. Country towns or villages usually have lower crime rates than densely populated cities, which ensures a peaceful environment for residents.

この例のように類語を活用することで、繰り返しが減ります。ここからは、このような類語の置き換えから、cohesion をさらに向上させる4つのパラフレーズテクニックを学んでいきます。それでは早速まいりましょう！

📝 4つの Paraphrase テクニックを習得せよ！

パラフレーズの方法は、大きく分けて以下の4つに分類することができます。

1. 類語による置き換え
2. 定義化
3. 品詞の変化
4. 文構造の変化

これらの方法は単体で使うこともありますが、通常は**複数を組み合わせて**行います。ではそれぞれの方法を詳しく見ていきましょう。

1. 類語による置き換え

文脈に応じて適当な類義語に置き換える方法のことで、英語では **substitution** (置き換え) と言います。次の例をご覧ください。

- (1) 「有益な情報」 **useful** information → **valuable** information
- (2) 「質を高める」 **improve** the quality → **enhance** the quality
- (3) 「過去20年間で」 **in the last twenty years** → **over the past two decades**

一見単純そうに見えますが、**コンテキストに応じて適切な類語を選択する高度な英語力**が必要です。慣れないうちは、**Thesaurus** (類語辞典) などでもず類語を探



第4章

.....
【Task 1】

5.5 → 6.5 → 7.5 へとスコアUP!
必勝法 & トレーニング

第4章

【Task 1】5.5→6.5→7.5へとスコアUP! 必勝法&トレーニング

Task 1は、グラフや図表を150ワード以上で書き上げることが主なタスクです。攻略に必要なスキルは、英語力に加え「**素早い分析力**と、**正確な描写力**」です。特に数値が示されているグラフは計算能力も求められます。ここではTask 1で出題される問題を出題頻度別に分け、**描写に必要な表現**、そして**攻略法とテクニック**をマスターしていきます。まずはTask 1で出題されるエッセイのタイプから見ていきましょう。Task 1では、次の7種類のエッセイが出題されます。

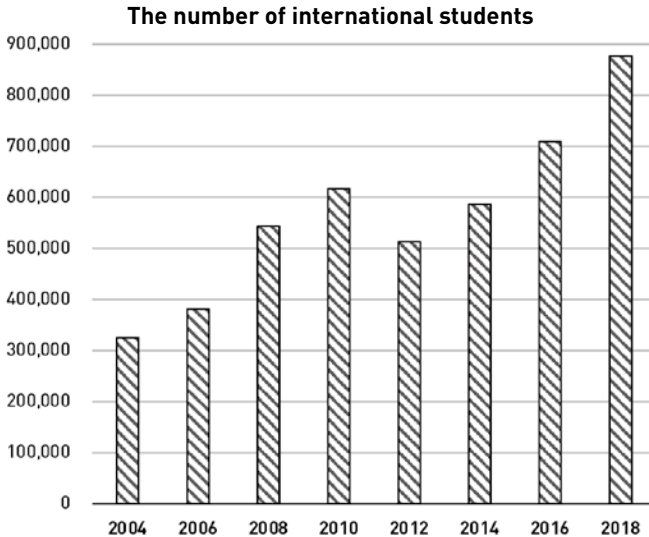
種類	重要度
1. Bar graph (棒グラフ)	★★★★★
2. Line graph (折れ線グラフ)	★★★★☆☆
3. Table (表)	★★★★☆☆
4. Pie chart (円グラフ)	★★★★☆☆
5. Two charts (1~4のうち2種類のグラフ)	★★★★☆☆
6. Plan (地図)	★★★★☆☆
7. Diagram (ダイヤグラム)	★★☆☆☆☆

1～5はグラフに示された**数値の変化**を描写する最も出題頻度が高い「**グラフ問題**」です。6は街や建物内の**地図上での変化**を描写する「**マップ問題**」、そして7は**製品の製造工程**や、**動植物の進化の過程**を描写する「**ダイヤグラム問題**」です。重要度に関しては過去10年間で出題された問題と、公式問題集のデータから導き出した本書オリジナルのランキングです。特に直近3年の頻度をもとに段階分けしていますので、最新の傾向を反映しています。それではまず最も出題頻度が高い1～5のグラフタイプのエッセイから始めていきましょう。

The graph below shows the number of international students who enrolled in Australian education institutions between 2004 and 2018. The table shows the percentages of international students who enrolled in four different educational sectors over the same period.

Summarise the information by selecting and reporting the main features, and make comparisons where relevant.

Write at least 150 words.



The percentages of enrolment

	2004	2018
Higher Education	50.5%	45.4%
Vocational Education	14%	27.9%
English language schools	19.3%	17.8%
School Education	8.4%	3.1%
Others	7.8%	5.8%

* International Student Enrolments in Australia 1994-2018 より一部抜粋

💡 ワンポイント・ティップ

このような複数グラフの場合は、まず2種類のグラフに比較できる関連性があるかを分析してください。ポイントは「単位」に着目することです。ここでは Bar chart は「留学生数」、Table は「割合」で書かれているため、比較することはできません。よって、1つ目のボディパラグラフに Bar graph の描写、2つ目のボディパラグラフに Table を書けばよいでしょう。

8.0以上にUPするための Model essay

* 太字は重要 Cohesive devices (結末語)

The bar chart illustrates international student enrolment figures in Australia spanning from 2004 to 2018 at two-year intervals while the table shows the type of education for which these students enrolled in those two years. **Overall**, international student numbers clearly and dramatically increased during that period given, and significant variations in the preferred types of studies taken are evident.

Starting at 320,000 in 2004, enrolment of foreign students then climbed dramatically for the next six years, reaching over 600,000 in 2010. **However**, a sharp decline of roughly 20% was recorded for 2012, which took numbers to below the 2008 total. Returning to growth in 2014, at nearly 600,000, overall figures then rose consistently to about 880,000 by 2018, an increase of approximately 270% during the period in question.

Turning to the types of institution at which international students enrolled, the most noticeable difference is perhaps an increase in vocational studies. Enrolments for this type of study nearly doubled from 14% to 27.9%, making it the second most popular sector in 2018. **In contrast**, other sectors suffered slight decreases in student numbers. A drop of 1.5% is shown for students taking English language courses, **whereas** reductions of around 5% are apparent at both schools and in tertiary education.

(207 words)

👉 スコアUP重要語彙をチェック!

- student enrolment** (学生の入学者数) **apparent** (明らかな)
- return to growth** (再び上昇傾向に戻る)
- during the period in question** (問題に示されている期間で)
- markedly** (著しく) **vocational** (専門技術に関した)
- tertiary education** (高等教育機関《higher educationの言い換え》)

【エッセイ訳】

棒グラフは、2年間隔で2004年から2018年までのオーストラリアへの留学生入学者数を、一方表はこれらの学生がこの2つの年に入学した教育機関の種類を示しています。概して、留学生数は期間中に明らかに劇的に増加し、そして好まれる学業形態の種類に大きな変化があるのは明らかです。

留学生の入学者数は、2004年の32万人から始まり、その後6年間で劇的に増加し、2010年には60万人を超えました。しかし、2012年には約20%急激に減少し、2008年の合計を下回りました。2014年に60万人近くまで増加傾向に戻ると、全体の数値は2018年までに継続的に約88万人に増えました。これは当該の期間中に約270%増加したことになります。

留学生が入学した機関の種類に目を向けてみると、おそらく最も顕著な違いは、専門技術学校における増加です。この種の機関への入学は、14%から27.9%にほぼ倍増し、2018年に2番目に人気のある機関になりました。対照的に、他の機関では入学率がわずかに減少しました。英語学校に在籍する学生は1.5%の減少が見られ、初等・中等教育学校と高等教育の両方で約5%の減少が見られます。

必勝攻略レクチャー

まずは棒グラフを描写した1つ目のボディパラグラフからです。このグラフは比較対象がないため、年代ごとの数値変化を描写します。ただし年度ごとに1つ1つ比較するのではなく、大きな特徴ごとに分類します。つまりここでは、モデルアンサーにあるように「**2004年～2010年までの上昇**」「**2010年～2012年での減少**」「**2014年～2018年までの再上昇**」の3つに区切り描写すればよいでしょう。

次にTableは増減ごとに比較・分類します。唯一上昇しているのはVocational Educationで、最も数値変化の大きい部門なのでここから始めます。その他の区分はすべて減少しているので、これらをグループ分けし、モデルエッセイのようにin contrast, whereas を用いれば比較の精度がアップします。

スコアUPポイントをチェック！

① 分詞構文の効果的な運用 ⇒ **and** ～ の繰り返しを減らすことができます。

・2パラグラフ：**Starting** at 320,000 / , **reaching** over 600,000 /

Returning to growth in 2014,

・3パラグラフ：, **making** it the second most popular sector

② 《前置詞＋関係代名詞》の用法

これは3章のGrammatical range and accuracyの項目で紹介したスコアUPに

つながる用法です。1パラグラフ目の、the type of education for which these students enrolled と、3パラグラフ目の at which international students enrolled の2か所です。それぞれ、本来 enrol for と enrol at にある for と at が前に出てきた形です。

③ 数値の具体化

- これは(4)の Bar graph で紹介した、数値を同格的に言い換える描写方法です。2パラグラフ目の最後に“an increase of approximately 270% during the period in question.”(示されている期間で約270%の増加)と書かれています。これは2004年～2018年の伸び率を表したもので(約32,000⇒約88,000)で、素早い正確な計算が必要ですが、入れると表現力がUPします。



各グラフに関連性がない場合は、パラグラフを分けて別々に描写せよ!!

以上で Task 1 のすべてのレクチャーは終了です。お疲れさまでした。スコアアップにつながるポイントや、構成、そして文法、語彙を含めた表現方法をご理解いただけましたか？ チャレンジングな部分が多かったと思いますが、特に練習問題や実践問題は何度も繰り返し、Task 1 のポイントを少しずつ吸収していきましょう。

では次はいよいよ Task 2 です。こちらもなかなかタフですが、基本から着実に学習し、少しずつ一緒に学習していきましょう！



第5章

.....
【Task 2】

5.5 → 6.5 → 7.5 へとスコアUP!
必勝法 & トレーニング

第5章

**【Task 2】5.5→6.5→7.5へとスコアUP!
必勝法&トレーニング**

Task 2 は、与えられたテーマに対して 250 ワード以上を書き上げることが求められます。スコア全体の **3 分の 2 を占めるため**、Task 2 の準備と対策が目標スコア達成の大きな鍵を握ります。ここでは **Task 2 で出題される問題を頻度別に分け**、「**テーマ別語彙と背景知識**」「**タイプ別エッセイの攻略法**」「**実践トレーニング**」の **3 段階アプローチで対策**を行います。では初めに、Task 2 攻略に必要な英語力以外の 3 つの重要な要素を確認しておきましょう。

1. 背景知識 (Background knowledge)

▶ 専門分野の基礎知識を付け、それらを効果的にアウトプットする力が求められます。そしてそれと同時に、諸問題に対する **自身の見解を持つこと**もハイスコアをゲットする上で重要なポイントと言えます。また、各分野で使われる **分野別語彙**の習得もスコア UP に不可欠な要素と言えます。

2. 文章構成力 (Essay writing)

▶ Task 1 とは異なる形式やルールに従いエッセイを書かなければいけません。また、日本語的発想にもとづく大学入試レベルの緩い英作文ではなく、IELTS にふさわしい (セミ) アカデミックな文章の流れを構築し、常に読み手を意識したわかりやすい英文を書くことが重要です。

3. 問題パターン分析 (Analysis of common essay types)

▶ 出題されるエッセイタイプを把握し、各タイプの特徴と、それに適した書き方をマスターすることが大切です。いくら語彙や文法が正しくとも、問われていることに適切に答えていなかったり、主題から逸脱してしまうと、スコアダウンにつながります。本書では問題タイプごとのテクニックと最新の傾向を踏まえ、Task 2 を攻略していきます。

以上が Task 2 攻略において基本となる 3 要素です。それでは、まず 1 の **背景知識** を付けていただくために、出題頻度の高い分野のレクチャーから始めていきます。それでは早速まいりましょう！

Task 2 頻出 10 テーマを攻略!

Task 2 攻略のポイントは「**出題頻度の高いテーマを集中的に行うこと**」です。ただし、公式問題集やインターネット上の問題をひたすらこなすのは非効率で、これは過去の出題頻度を考慮しておらず、マイナーな問題も多く含まれるからです。ここでは過去 10 年間に¹出題された問題と、公式問題集を中心としたケンブリッジ大学出版が出している関連書籍の問題を含めたデータベースから分析したテーマを厳選して取り上げます。Task 2 でおさえておくべきテーマは次の 10 分野です。

頻出 10 テーマ

1. **Education** (教育)
2. **Environment** (環境)
3. **Media** (メディア)
4. **Modern life** (現代生活)
5. **Business and economy** (ビジネスと経済)
6. **Science and technology** (サイエンス・テクノロジー)
7. **Philosophy of life** (人生哲学)
8. **Social problems** (社会問題)
9. **Arts and entertainment** (芸術と娯楽)
10. **Gender** (ジェンダー)

この 10 分野に焦点を絞り、出題頻度の高いトピックを厳選して取り上げます。ちなみに IELTS は世界で行われるため、次のような sensitive (デリケート) かつ controversial (議論の激しい) なテーマは出題されませんので、対策は不要です。

death (死) / **euthanasia** (安楽死) / **politics** (政治) /
war (戦争) / **religion** (宗教) / **organ transplant** (臓器移植) /
abortion (中絶) / **same-sex marriage** (同性婚) など

ここからこの 10 テーマで必要とされる基礎的な背景知識とテーマ別語彙を取り上げていきます。特に語彙の評価基準でハイスコアを取るためには、難解な語彙を使うのではなく「**テーマ別語彙の適切な運用**」が鍵となります。初めて知ることや、見たこともない表現が多く、難しく感じるかもしれません。しかし、何度も触れることで少しずつ身につけていきましょう!

2. Environment (環境)

◎ 3大重要トピック

▶ 次の3つは理由や具体例を含めて必ずアイデアを考えておきましょう！

1. 交通渋滞の原因と、効果的な対処法
2. 代替エネルギーのメリットとデメリットとは
3. 世界中で動植物が減少しているが、その原因と効果的な対策

❖ ワンポイント・レクチャー

一般的に、**環境**は **the natural environment** (自然環境) と **the human-made environment** (人工環境) の2つに分類されますが、IELTS で重要な項目は前者です。特に環境問題に対するその**原因と解決策** (cause and solution), あるいは**原因と影響** (cause and effect) について問われる出題頻度が高い傾向にあります。

まず**地球温暖化** (global warming) は必須で、主な原因は、産業活動における**化石燃料燃焼** (combustion of fossil fuels) や、**二酸化炭素排出** (carbon emissions) 量の増加によって**温室効果** (greenhouse effect) が引き起こされるからです。また、**農地拡大や土地開発を目的とした森林伐採** (deforestation for agriculture and land development) も温暖化の原因であり、この結果**自然災害** (natural disasters) や**異常気象** (extreme weather) をはじめとする、**気候変動** (climate change) を誘発することになります。

最後にこういった問題に対する「**対処法**」や「**解決策**」を考えていきましょう。地球温暖化対策としては、まずは**エネルギーの運用管理** (energy management) が重要で、産業活動におけるエネルギー利用の節約や**効率性の向上** (improve energy efficiency) が鍵となります。次に、太陽光、風力に代表される**代替エネルギー** (alternative energy sources) の活用が挙げられます。同様に、二酸化炭素削減の一環として**環境に優しい車両** (environmentally-friendly vehicles) の積極的な導入、または車の使用を抑制する方法として、公共交通機関や道路網をはじめとする**交通インフラの改善** (improvement of transport infrastructure) や、**自転車専用道路の設置** (creation of cycle lanes) などが考えられます。他にもごみ問題への対策法も出題頻度が高いので、リサイクル以外の対策法を考えておきましょう。

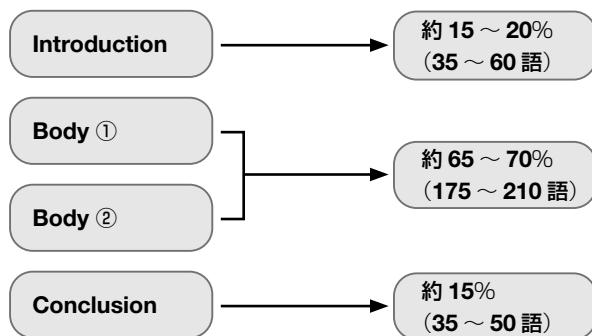
biodiversity	<p>㊦ 生物的多様性 (= biological diversity) prevent the loss of biodiversity (生物多様性の喪失を防ぐ) efforts to conserve biodiversity (生物多様性を守る取り組み)</p>
endangered species	<p>㊦ 絶滅危惧種 the illegal trades in endangered species (絶滅危惧種の違法取引) ㊦ flora and fauna (動植物) ㊦ invasion of alien species (外来種の侵入)</p>
fossil fuels	<p>㊦ 化石燃料 oil (石油), coal (石炭), natural gas (天然ガス) は具体例として書けるようにしておきましょう。</p>
greenhouse gas emissions	<p>㊦ 温室効果ガス curb greenhouse gas emissions (温室効果ガスを抑制する) ㊦ vehicle exhaust emissions (排気ガス)</p>
renewable energy source	<p>㊦ 再生可能エネルギー sun, wind, tidal wave (潮力), biomass (バイオマス), hydro power (水力), geothermal energy (地熱) は書けるようにしておこう。</p>
water pollution	<p>㊦ 水質汚染 (= water contamination) 他にも, air pollution (水質汚染), soil pollution (土壌汚染), noise pollution (騒音公害), light pollution (光害) も要チェック!</p>
waste disposal method	<p>㊦ ゴミ処理方法 recycling 以外では, incineration (焼却), landfilling (埋め立て), dumping (投棄), composting (堆肥化) などが主な処理方法。</p>
poaching	<p>㊦ 密猟 (= illegal hunting) 特に medicine や cosmetics に使われる rhino (サイ) の角や, 装飾 (ornament) に使われる象牙 (ivory) が標的となる。</p>
wildlife conservation	<p>㊦ 野生生物保護 (= conservation efforts) 動物園や保護団体が行う habitat restoration (生息環境の修復), captive breeding (人工繁殖), repopulation (再増殖) は重要ワード。</p>
livestock farming	<p>㊦ 家畜農業 overgrazing (過度な放牧) により desertification (砂漠化) が進行し, land degradation (土壌劣化) につながる。</p>

Task 2 エッセイの構成をマスター！

ここからはエッセイの書き方と構成について見ていきましょう。Task 1と同じように、**構成 (organisation / structure)** の重要性、特に**パラグラフごとに分けて書くこと (paragraphing)** は不可欠です。まずは全体の構成の概要から見ていきましょう。

項目	概要
Introduction (イントロダクション：導入)	エッセイの 主題 と、それに対する 自分のスタンスと根拠 を簡潔に書きます。
Body (ボディ：本論)	イントロで述べた内容を具体例を挙げながら詳細に書いていきます。複数で構成します。
Conclusion (コンクリュージョン：結論)	ボディの内容を軽く要約し、イントロで書いた自分のスタンスをもう一度述べます。

必ずこの構成と内容で書いてください。では次に分量について見ていきます。Task 2は250語以上書くことが条件ですが、Task 1同様**多く書けばスコアが上がるというわけでもありません**。むしろ**270～300語程度で、無駄のない引き締まった文章を書く**方が重要です。では理想的な割合と語数を示した下の図を見ていきましょう。



* Bodyは3つで展開することもあります。

このように普段からシンプルかつスリムに書くことを意識してください。では各項目の本題に入る前に、例題で実際のエッセイをご覧ください、大まかな流れをつかんでいただきましょう。こちらの問題を取り上げます。

Sample question

Recent developments in technology have greatly changed our ways of life in a positive way.

To what extent do you agree or disagree with this statement?

Write at least 250 words.

It is often pointed out that technological advancements over the past several decades have significantly improved the lives of many people across the globe. I mostly agree with this claim **because** widespread use of various technologies has benefited society as a whole in terms of efficiency in production and shopping.

Admittedly, despite its evident assets, there are several drawbacks to recent technological progress. One such negative point is the increased exposure to cybercrime. Internet users, especially teenagers and computer-illiterate adults, are likely to fall victim to identity theft, fraud or hacking when they inadvertently access harmful websites or download virus-infected data. These potential risks can not only cause a significant financial loss among users, **but also** result in an invasion of privacy.

Aside from these flaws, **however**, one major example of progress in technology is enhanced efficiency in production for various industries. In the manufacturing sector, **for instance**, extensive automation and the introduction of industrial robots have enormously contributed to increased output of quality products with greater speed and precision than those created by human workers. These improvements have not only boosted overall productivity, **but also** helped many companies cut labour costs. **Another** benefit is the increased availability of online shopping. This method has enhanced the quality of people's lives, especially for those who have more difficulty shopping in person, such as rural residents, families with young children and the elderly with limited mobility. They can order almost anything they need, from groceries to household items regardless of location, family circumstances or physical capabilities.

In conclusion, **although** internet users can be exposed to some internet-related crime, I would argue that technological development has brought considerable benefits, including improved industrial efficiency and access to online stores. (286 words)

👉 スコア UP 重要語彙をチェック！

- admittedly** (確かに) **exposure to ~** (~にさらされること)
- computer-illiterate** (コンピュータにうとい) **fall victim to ~** (~の被害者となる)
- inadvertently** (うっかりと) **extensive automation** (大幅な自動化)
- boost productivity** (生産性を高める)
- limited mobility** (移動の自由が制限されていること)
- family circumstances** (家庭の事情)

【日本語訳】

過去数十年にわたるテクノロジーの進歩により、世界中の多くの人々の生活が大幅に改善されたとよく指摘されます。さまざまな技術の普及は、生産や買い物の効率性の面で社会全体に恩恵をもたらしているのです、私はこの主張にほぼ同意します。

明らかな利点があるのは確かですが、最近の技術進歩にはいくつかの欠点があります。そのマイナス点のひとつは、サイバー犯罪への露出の増加です。インターネットユーザー、特に10代の若者やコンピュータに精通していない成人は、うっかりと有害なサイトにアクセスしたり、ウイルスに感染したデータをダウンロードしたりすると、個人情報の盗難、詐欺、ハッキングの被害に遭う可能性があります。これらの潜在的なリスクは、利用者に重大な経済的損失をもたらすだけでなく、プライバシーの侵害にもつながる可能性があります。

しかし、これらの欠点は別として、技術進歩のひとつの主要な例は、さまざまな産業における生産効率の向上です。例えば、製造業では、大規模な自動化と産業用ロボットの導入により、人間の労働者が造ったものよりも、高速かつ正確に高品質の製品の生産量が増加することに大きく貢献しています。これらの改善は、全体的な生産性を向上させるだけでなく、多くの企業が人件費を削減するのにも役立っています。もうひとつの利点は、オンラインショッピングの利用性が向上することです。この方法は、特に農村部の住民、小さな子供連れの家族、身体の不自由な高齢者など、直接買い物をするのが難しい人々の生活の質を向上させました。場所、家族の状況、または身体能力に関係なく、食料品から家庭用品まで、必要なほとんどすべてのものを注文することができます。

結論として、インターネットユーザーはインターネット関連の犯罪にさらされる可能性があります。技術開発は産業効率の向上やオンラインストアへのアクセスなど、かなりのメリットをもたらしたと強く思います。

全体像はつかんでいただけましたか？ ここまで書ける必要はありませんが、現時点ではざっくりとした構成を理解できれば十分です。ではここからは、エッセイの構成と作り方を詳しく見ていきましょう。



第6章

.....

**【Task 2】のレパトリーを
増やす背景知識力UP
& キーアイデア・トレーニング**

第6章

**[Task 2] のレパートリーを増やす背景知識力UP
& キーアイデア・トレーニング**

IELTS のライティング Task 2 の問題は、**教育問題・子育て・ジェンダー・ビジネス・人生哲学・テクノロジー・環境問題・メディア・アート**と多岐に渡っていますが、世の中について、人生いかに生きるかについて深く考えさせて、awareness を高める問題が中心となっています。そこで、社会情勢の現状を述べるイントロや見識を述べるボディを含めて、優れた Task 2 のエッセイを書くには、普段から、そういった問題について背景知識を身につけたり、人と話し合ったり、真剣に考えたりしてエッセイを書くトレーニングをしておく必要があります。

そこで、このセクションでは、Task 2 のスコアを効果的に UP するために、背景知識を身につけながら、キーポイント（キーアイデア）やそのサポートを作る練習をしたいと思います。まずは「教育・子育て」に関するトピックからです。

A. 教育・子育て

世界の子供人口約 21 億の 7 分の 1 が小中学教育も受けられないという現状の中、先進国では**大学進学率** (college enrolment rates) が 100% を超えるアメリカ (男 75%・女 102%)、オーストラリア (男 94%・女 133%)、韓国 (男 105%・女 83%) のような国が見受けられ、**教育格差** (an educational divide) は世界の深刻な問題となっています。さらに、コロナによって 10 億人以上の生徒に**学校閉鎖** (school closure) などの打撃を与え、先進国でも**オンライン授業** (online classes) をめぐる**デジタル格差** (a digital divide) による教育格差や、休校による給食停止による**栄養格差** (nutritional divide) の問題にまで広がっています。

こういった中、**全教育機関に対する公的支出の GDP 比率** (the ratio of public spending on all levels of education to GDP) は、アメリカ 4.1%、韓国 3.8%、フィンランド 5.1%、イギリス 4.2%、フランス 4.5% で、日本は 2.9% とかなり低くなっています。そして、GDP に対する**高等教育への直接公共支出の割合** (the ratio of direct public spending on higher education) は、1.7% のフィンランド、スウェーデン、アメリカの 1.4% 以上、加盟 OECD 加盟国 29 か国の平均が 1.0%

対して、日本は僅か0.5%でしかありません。

また、日本の高等教育進学率は男65%・女61%で、女性の場合は、イランの63%、アルジェリアの64%よりも低くなっています。事実、先進国、途上国、イスラム圏を含めて世界のほとんどの国では、女子の方が男子よりも大学進学率が高く、その差は、アルゼンチン (Argentina) 45%、アイスランド (Iceland) 40%、豪州 (Australia) 37%、米国 (US) 27%、アルジェリア (Algeria) 26%、キューバ (Cuba) 19%、タイ (Thailand) 17%、フィンランド (Finland) 15%、ロシア (Russia) 14%、中国 (China) 10%となっています。これは、世界で**男女平等 (gender equality)**の機運が高まる中、日本の**男性優位主義の意識の根強さ (deep-rooted male chauvinism)**を物語っています。

また、こういった教育における**gender gap**が是正されても、日本のような国では、**gender roles** (男女の役割分担)、**gender stereotype** (男女をめぐる固定観念)がまだまだ残っています。そして、それが男女の**ambition gap** (野心ギャップ)を生み出し、職場での**gender discrimination** (性差別)、**gender favouritism** (性別によるひいき)の原因にもなっています。こういった現状を踏まえて、**gender empowerment** (女性の積極的な政治経済界、意思決定への参加)を促し、**gender relationship** (男女の関係)を見直し、**gender bias and prejudice** (性差に関する偏見)をなくすための教育を推進していく必要があります。

それから、今問題となっているのが「**非認知能力 (non-cognitive ability)**」、特に**EQ (emotional intelligence** [感情的知性・心の知能指数])の重要性です。現代の教育では、**競争社会 (competitive educational environment)**の中で、1に**academic ability** (学力)、つまり**cognitive ability** (認知能力)、次に**athletic ability** (運動能力)や**artistic ability** (芸術的能力)が重要視されています。しかし、**人間関係をうまく維持する能力 (interpersonal skills)**、**相手の感情を理解したり同情したりする力 (empathy and sympathy)**、**感情をコントロールしたり、やり抜く力 (emotional self-control and grit [perseverance])**の重要性が、世界各国の教育現場で高まっています。

IELTSのエッセイを書くときは、こう言ったことを踏まえて理想の教育や子育てやジェンダーに関する見識をまとめておきましょう。それでは1つ目のトピックです。

Some people say that children can benefit more from reading and artistic activities (e.g. music, drawing) than athletic activities.

To what extent do you agree or disagree with this opinion?

(子供たちは運動活動よりも読書や芸術活動〔音楽、絵など〕からより多くの利益を得ることができるという人がいるが、この意見にどの程度賛成か、反対か)

アート&読書とスポーツのどちらが子供にプラスになるかを判断する問題で、これは比較的簡単なトピックと言えます。まず、人間の能力は大きく、

1. **academic abilities** (学力・知力)
2. **athletic abilities** (運動能力・体力)
3. **artistic abilities** (芸術的能力)
4. **EQ** (emotional intelligence: 対人関係能力やくじけない心など)

に分かれます。これらを「知勇仁忍」と呼ぶ人もいるでしょうが、このうち読書とアートは1, 3, 4を伸ばし、スポーツは2, 4を伸ばします。

4のEQは、読書による**疑似体験(vicarious experience)**によって**共感力(empathy)**を高めたり、スポーツによって**根性や自制心、協調性を鍛えたり** (develop perseverance, self-discipline, and a team spirit) やアートによって**感性(sensitivity)**を高めることによって、**empathy, sympathy**を高めることができるので、いずれも効果的にやれば伸ばすことができます。また、創造性の重要性を唱えたベストセラー“Whole New Mind”の著者、ダニエル・ピンクの言う**scientific creativity**のみに頼り、**ものを売るMBAの時代から物の持つ美しさ(aesthetic appeal)**や**芸術性(artistic creativity)**も重視する**MFA(the Master of Fine Arts)**の時代に移行する中、ビジネスでもアートの持つ**付加価値(added value)**がマーケティングにおいて重要であることを述べればさらにアーギュメントが強くなります。

よって、人間の能力の分類をイントロに使い、読書とアートの方がmore beneficialとすればいいのですが、これもスポーツも体を鍛え、EQを伸ばし、要は比率の問題なので、strongly agreeではなく、**partly agree**ぐらいにして、前述のスポーツのよさも少し書く方が、両方の意見を述べてから自分の意見を述べる

【編著】植田 一三 (Ichay Ueda)

年齢・ジェンダー・国籍を超える英悟の超人 (amortal philosopher)。次代をリードする英語の最高峰資格 8 冠突破・英才教育&英語教育書ライター養成校「アクエアリーズ」学長。英語の勉強を通して、キャリア UP、自己実現、社会貢献を目指す「英悟道」精神。Let's enjoy the process! (陽は必ず昇る) をモットーに、38 年間の指導歴で、英検 1 級合格者を約 2,500 名、英語資格 5 冠 (英検 1 級・通訳案内士・TOEIC 980 点・国連英検特 A 級、工業英検 1 級) 突破者を 125 名以上育てる。日本で 15 年間、英語道を極めた後、ノースウェスタン大学院修士課程、テキサス大学博士課程コミュニケーション学部で留学して視野を広げ、人間力を鍛え、その後、同大学で異文化コミュニケーション学を指導。著書は、英語・中国語・韓国語・日本語学習書と多岐に渡って 100 冊を超え、その多くはアジア 5 か国で翻訳されている。

【著者】小谷 延良 (こたにのぶよし)

マコーリー大学翻訳学・通訳学・応用言語学修士課程 (TESOL 専攻) 修了。ケンブリッジ大学認定教員資格 CELTA、レスター大学でアカデミック英語指導者学位 PG Cert in TEAP を取得。大阪府立高校教諭を経て現在、東京都市大学講師。テンブル大学、学習院女子大学、昭和女子大学非常勤講師。JSAF-IELTS 認定アカデミック・スーパーバイザー (公認 トレーナー)。明治大学、テンブル大学、埼玉大学など多くの機関で IELTS 指導を行い、4 か国で 60 回以上の IELTS 受験経験を有する Mr. IELTS。ライティングは 8.0 以上を 13 回、スピーキングは 8.0 以上を 21 回取得。主な著書に『はじめての IELTS 全パート総合対策』『はじめての IELTS 単語対策 3600』(以上、アスク出版)、『英語ライティング至高のテクニック 36』(ベレ出版) などがある。

【著者】上田 敏子 (うえだとしこ)

アクエアリーズ英検 1 級・国連英検特 A 級・IELTS・通訳案内士講座講師。パーミンガム大学院 (翻訳学)・ケンブリッジ大学国際関係論コース修了。国連英検特 A 級、工業英検 1 級、英検 1 級、TOEIC 満点、通訳案内士取得。鋭い異文化洞察と芸術的鑑識眼を備え、英語教育を通して知性と人格を磨く英語教育界のワンダーウーマン。主な著書に、『IELTS スピーキング・ライティング完全攻略』『英検ライティング大特訓シリーズ』(以上、アスク出版)、『TOEFL iBT® スピーキング+ライティング完全攻略』(明日香出版社)、『英検面接大特訓シリーズ』(Jリサーチ出版)、『英語で説明する日本の文化シリーズ』(語研)、『英語のライティング至高のテクニック 36』『英語で経済・政治・社会を討論する技術と表現』(以上、ベレ出版) がある。

© Ichizo Ueda; Nobuyoshi Kotani; Toshiko Ueda, 2021. Printed in Japan

IELTS ライティング徹底攻略

2021 年 4 月 30 日 初版第 1 刷発行

編著 植田 一三
著者 小谷 延良
上田 敏子
制作 ツディブックス株式会社
発行者 田中 稔
発行所 株式会社 語研
〒101-0064
東京都千代田区神田猿樂町 2-7-17
電話 03-3291-3986
ファクス 03-3291-6749
組版 ツディブックス株式会社
印刷・製本 シナノ書籍印刷株式会社

ISBN978-4-87615-367-1 C0082

書名 アイエルツ ライティング テッティコウリヤク
編者 ウエダ イチソウ
著者 コタニ ノブヨシ
ウエダ トシコ
著作者および発行者の許可なく転載・複製することを禁じます。

定価はカバーに表示してあります。
乱丁本、落丁本はお取り替えいたします。

株式会社語研
GOKEN

語研ホームページ <https://www.goken-net.co.jp/>

本書の感想は
スマホから ↓

